

平成 30 年度 第2回鶴見・あいねっと(鶴見区地域福祉保健計画)推進委員会 議事要旨

日時：平成 31 年 1 月 21 日（月）15：00～17:00

場所：鶴見区役所 6 階 8・9 号会議室

推進委員：八森副委員長

押山委員・川合委員・斉藤委員・神保委員

田中(志)委員・増子委員・向井委員(烏田委員代理)

(欠席：石川委員長・大野委員・河西委員・高橋委員・高柳委員

田中(博)委員・富樫委員・西澤委員・藤田委員)

事務局：<区役所>

副区長、

福祉保健センター長、福祉保健課長、高齢・障害支援課長、

こども家庭支援課長、生活支援課長、

地域力推進担当課長、坂田地域力推進担当係長、

事業企画担当係長、福祉保健課職員

<区社協>

事務局長、事務局次長、区社会福祉協議会職員

1 開会

- ・写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

2 センター長挨拶

3 議事

(1) 第 15 回鶴見・あいねっと推進フォーラムの開催について（説明：事務局次長）

※資料 2（推進フォーラムちらし）及び資料 3（推進フォーラム冊子（案））をもとに説明。

- ・平成 31 年 2 月 23 日（土）13:30～16:00 鶴見公会堂にて実施。

- ・社会福祉功労者感謝会、基調講演「人と人とのつながり」（すずの会代表 鈴木恵子氏）、地域活動事例発表 2 団体（豊岡ふらっとカフェ、よつばカフェ）を実施予定。

- ・会場ロビーでは、例年のボランティアコーナー、「鶴っこ」製品の展示に加えて、お出かけ情報コーナーによる場の情報の提供や、フードドライブを実施。

- ・地区のあいねっと活動について、今年度、区内で特徴的な取組だった 2 テーマに沿って活動紹介。

① 防災（生麦第二地区 災害図上訓練 D I G、リアル H U G 訓練）

② 子育て（江ヶ崎地区 地区フォーラムでの子育て世代アンケート）

⇒意見等なく承認。

(2) 第 4 期区計画の進め方について（説明：事業企画担当係長）

※資料 4（第 4 期鶴見・あいねっと策定の進め方について）をもとに説明。

⇒意見等なく承認。

(3) 話し合い ～第 3 期計画の中間振り返り～

（進行役）

今回の話し合いのテーマは「第3期計画の中間振り返り」。今現在、鶴見・あいねっとは今期3年目を迎え、各地区で掲げた目標に対して様々な取組を進めている。後半の2年間に今後より取組を充実させていくためにも、中間期として取組がどれくらい進んだか、またその取組の課題は何なのか等、ちょうど折り返し地点に立ったタイミングでの振り返りをしていきたい。

今回の話し合いでは、皆さんの日頃の活動を通して「3年間の振り返り」、「感じている課題や工夫できるといいなと思うこと」等をテーマにお話しいただきたい。

そこで、まず、話し合いの参考に第3期の取組状況として、第3期の推進委員会意見まとめ、地域の取組事例を事務局から紹介をお願いします。

(区社協職員)

※資料5（第3期あいねっと中間振り返り）をもとに説明。

- ・ 推進委員会での意見交換内容について
- ・ 地域の取組例（継続、充実してきているもの）について
- ・ 鶴見区ふれあい助成金助成状況について
- ・ 鶴見区元気づくりステーション事業について

(進行役)

皆さんの推進委員会での意見を受けて、それに関係した色々な取組が実際に行われていることも話にあった。また、助成の実績を受けても、サロンの対象が今まで高齢者が多かったのが、多世代型のものが多くなっていることも、今の取組の流れを表していると思う。

それでは、皆さんからもご意見をいただきたい。こんな取組をしているということや、その中で感じていることなどをお話しいただきたい。

(委員)

矢向のエリアでは、多世代交流ということで、子どもと高齢者の交流や、障害者の方とボッチャの試合をしたりと、今年は多世代あるいは障害者との交流ということで少し広められたかなと思っている。多世代交流について、より広め継続していくことが大きな課題と思っている。

(進行役)

地域包括ケアの推進をということで、川のまちエリア会議の取組をされているということだが、簡単な概要と、その中で見えてきたこと、今後の取組の方向について伺いたい。

(委員)

川のまちエリア会議は、鶴見区が広いので、山・川・海と大きく分け、矢向エリアは川のまちということで始めた。鶴見市場地域ケアプラザ、矢向地域ケアプラザ、潮田病院とたくさんの方に参加していただきながら今年度は実施した。毎年テーマを決めてその地域に必要なことをということで、今年はSOSネットワーク中心で進めた。3年目位になるが、色々な施設やサービス事業者とも一緒に考えながら進めている。

(進行役)

鶴見区全体が流入の多い場所だが、江ヶ崎地区は特に若年者の流入人口が多いと聞いている。現在の人口の動きに対して、新たな取組の必要性や、すでに取り組んでいることがあれば教えてほしい。

(委員)

江ヶ崎地区などは、毎年何百人単位で人が増えて若い世代の流入が激しい地域。地域の方たちとしては、お子さんのことをメインにイベント等を行うことで、その親御さんも一緒に活動してくれるのではないかとということで、お子さん中心にいろんな事業を考えて展開している。先ほど子育て世代アンケートを取ったと紹介があったが、急に新しい地域に入った小さいお子さんを持つお母さんは、どこに情報を取りに行けばいいかが分からないので、開けた情報ネットワークが今後の課題と思っている。

(進行役)

子育てサロンも増えてきているのか。

(委員)

新たにというよりは、今までのところを充実させて広めていくという感じでやっておられる。

(進行役)

多世代の交流を増やしていこうということですのですでに始めていらっしゃることと、障害のある方と気の合う方とがそれぞれの立場で一緒に交流しながら理解を深めたり、一緒に取り組んでいこうということ。一方で、医療機関や介護事業所の方々も含めて、支援体制づくりを共有しながら、テーマを決めて皆で実際の活動に活かしていこうということで、広い範囲の活動をきちんと柱立てをしながら、地域の人や医療機関も主体的に関わっている。まさにあいねっとでやろうとしていることがたくさん盛り込まれた話だったと思う。

では、次に地域活動ホームなどたくさん地域活動をされていると思うので、活動の内容や今感じていること、これからの取組などをお話いただきたい。

(委員)

活動歴が約20年経つ中で、周辺に住む地域の方々の高齢化が顕在化してきていると実感している。その中で、障害福祉施設である地域活動ホームの地域交流室を活用いただき、元気づくりステーションの一環として活動いただくようになって、障害のある方との交流が少しずつ生まれてきている段階。他にも、活動ホームの駐車場を使っている買い物に困難のある高齢者の方の買い物支援というところで、少しずつつながりの部分が増えてきている実感がある。

鶴見区全体の障害のある方の状況としては、鶴見区の人口増加する中で、障害のあるお子さんの人数も増えてきている。障害のあるお子さんが大人になっていくところでは、つながりという部分ではまだ課題が大きいと感じている。とりわけ、放課後サービスなど福祉サービスの受け手は増えているが、障害のある若者たちが地域の中で地域住民となっているかということ、まだまだ受け手という形、保護されるべき存在であると実感している。

お子さんが増えていく中で、社会参加に結びつく一般就労も増えている。もう1つの課題は、家族の高齢化により、親亡き後に地域生活をどこで暮らすのかといった中で、まだまだ親亡き後の障害者が共同生活をするグループホームの数は地域で非常に偏りがある。鶴見区が安心して住まうことができる地域かということ、本人も親もまだ不安を抱えている状況。

ただその中でも、相談支援事業をする中で、豊岡地区で自閉症理解講座を実施したり、豊岡地区で障害者のグループホームを私共の法人が開設したが、全国でも反対運動が多い中、豊岡も含めて鶴見区は反対運動がなく、これまでのつながりが活かされ、ホームが建設できている。さらに今回、地域の中でサービス利用者から地域住民とし

て、地域活動の支え手として参画できないかという声をしっかり受け止めて議論していこうと企画している。鶴見の中でも軽度の障害の方が増えている。担い手という視点で活動に参加していくような取組を、事業者と子育て中の若いママも含めて、地域活動に着目していこうと伝えていくことが、あいねっとのさらなる可能性も含め、鶴見の潜在能力として大切になっていくのではないかと感じている。

(進行役)

場の共有をしていくことが理解してもらうチャンスにつながり、良い効果を作った。買い物支援の取組に関わることなどで障害のある方たちが社会参加し、地域の中で生活していくことを具現化できればいいなという取組だったと思う。

障害者が親亡き後、地域の中で地域の構成員になることは難しいと、大きな課題を1つ提起してもらった。

鶴見ではまだまだ共同生活できるグループホームが少ないという課題も取り上げていただいた。グループホームに対する反対運動がない良い状況の中で、流入した新しい人たちが今まであった鶴見の良い文化を引き継いでこれを受け止めてもらえるような取組の継承も重要。

それでは、次の委員に感じていることやこれからの課題や今後の取組についてお話ししたい。

(委員)

0歳57日目から保育園に入れるまでのお子さん、幼稚園に入るまでの専業主婦の方のお子さんを預かっている。110%以上の稼働率でも、1日10人以上お断りしている。断る人の中には、障害があるだろうと思うお子さんもいる。どうしたらいいんだろうとこの十何年間考えているが、個人では限界を感じる。別の新たな方法を見いだせればと思っている。アイデアや思いはあるが、力不足で実現できない。月1日、2日でもそういう場がある、そういう時間があることで、ママたちにとってはそこが希望になる。心の持ちようが変わってくる。場所の提供や仕組みづくりに来年度は動けていけたらと思う。一時預かり利用者を対象としたアンケートも独自にしているので、何かの折に利用してもらえればと思う。

(進行役)

いろんな可能性を探りながら、場の問題や仕組みづくりなど考えていけたらと思う。

次に、委員から、健康づくりの視点や、友愛での見守りの活動など多方面から関わっている中で、特に気になることなどお話ししたい。

(委員)

友愛活動と健康づくり、奉仕活動をしている。70代の方は活発に動けるが、60代は仕事があり会員にはなっているが力になる活動はできず、80代になると体の問題がありなかなか動けない。その中でどう活動を深めていくか。一部の方に偏っているのが現状。地域のマップづくりへの参加や健康づくりリーダー講座などのほか、ケアプラザや区社協の協力で認知症サポーターを養成している。認知症に対する理解の段階。友愛活動は、不審がられるので難しい活動だが、まずは自分のクラブの高齢者とのつながりを深めていくことで、信頼を深めていきたい。

(進行役)

より身近なところでの会員の方とのつながりを深めていくことによって見守り体制を作っていこうという話だったと思う。人材育成もして、色々な方面から活動を展開されていると感じた。

続いて委員から、認知症カフェのことや介護者の会の活動のことなどで感じていることがあればお話いただきたい。

(委員)

区内各所で認知症カフェを開いてくださっており、心強く感じている。カフェの存在を、団体会報とともに周知している。新規のコミュニティカフェもさらに増えてきている。

また、「オレンジパートナー」という県における認知症関連の取組を、団体に推進している。区内に浸透させていきたい。

県立鶴見総合高校では、認知症サポーター養成講座を授業の一環で取り組まれている。生徒のみなさんの熱心な取組に感謝しており、引き続き他小・中学校等にも実施を働き掛けていきたい。

(進行役)

引き続き委員から、保健活動推進員としての取組等を通してご意見があればお話しいただきたい。

(委員)

住民の皆さんの健康を考え、健康講座（歯科医師会・薬剤師会等からの御講演など）等を進めている。参加された区民のみなさんにとっても好評だ。

また、各地域にてウォーキング大会を開催しており、健康づくりに加え、地域の避難場所を確認するという防災啓発の意義も兼ねている。

健康体操も頻繁に実施できており、区民みなさんの健康維持につながっている。子育て支援についてだが、生麦第二地区では、計5か所で子育て支援活動が行われている。継続し続けることに価値があると感じている。

認知症カフェについても、カフェでのお話相手等として、保健活動推進員が関わっている。

(進行役)

保健活動推進員さんが、さまざまな健康増進対策に加えて、災害時につながる取組や子育て支援と、幅広い分野に取り組まれていることが伝わった。引き続き継続できる体制を模索していくことが大切ではないか。

最後に、委員から、民生委員・児童委員としての取組についてお話しいただきたい。鶴見区では見守り活動がうまく進んでいる地区もあると聞いている。

(委員)

民生委員・児童委員（以下民生委員）は、区で約330名が活動しており、大きく3つの役割がある。

- ① 65歳以上の高齢者への見守り（月1～2度）
- ② 75歳以上の一人暮らし高齢者への見守り（行政からの名簿提供に基づく）
- ③ 災害時要援護者への見守り（②に同じ）

災害時要援護者への見守りについては、“同意方式”から“情報共有方式”（手上げ式から、拒否のあった方のみ名簿から削除する方式へ）の移行が進んでいる。

見守るべき対象のみなさまが増えてきており、民生委員だけですべてを完了することは難しくなっている。地域のみなさんに協力いただく必要がある。もちろん、民生委員自身の研鑽にも力を入れる。

また、これからは民生委員の担い手不足が課題となっていく。

(進行役)

情報共有方式に移行することで、見守り活動が進めやすくなるメリットがある。災害時要援護者への見守りについて、鶴見区で情報共有方式への移行が進んでいることは大きな価値だといえる。これからも引き続き見守りの充実を図られることが望まれており、そのためには、この活動が今まで以上に地域みなさんに理解されていくことが必要ではないか。

(進行役)

それでは、総括として、次のことが挙げられるかと思います。

- ① 鶴見区でこれまで取り組まれているさまざまな活動について、いろいろな課題を乗り越えながら、もう1歩前へ進めていく姿勢が、各委員のお話から感じ取られた。
- ② 見守り活動のさらなる推進が必要である。
- ③ 各分野で、サロン（集まる場所）を増やしていく取組が前進している。
- ④ 子育て支援について、第3期の前半を通じてニーズが鮮明になってきている。若い世代が増えてきた鶴見区で、地域課題として子育て支援にどう取り組むか。
- ⑤ それぞれの福祉分野を超えて、多世代で交流しながら次の段階へ活動を進めていくことが大切ではないか。

事務局で今日の各委員からの意見をまとめ、中間振り返りとして整理し、第3期後半の推進に生かしていただきたい。

(4) つるみ・地域元気づくり事業について（説明：地域力推進担当係長）

※資料6（平成31年度つるみ・地域元気づくり事業募集案内）をもとに説明。

・例年通り、「つるみ・地域のつながり応援事業補助金」と「つるみ・元気アップ事業補助金」の対象団体を募集する。

(進行役)

これにて予定していた議題は終了ですが、連絡事項等がありますか。

→特になし。

4 閉会